

鵜戸神宮：お乳岩

岩窟の凹凸のある壁の一部は、突き出た胸のような形をしています。この「お乳岩」は、先端からゆっくりと水が滴り落ちるため常に湿っており、古くから崇拝されてきました。地元の言い伝えでは、鵜戸神社の主祭神である鸕鷀草葺不合（ウガヤフキアエズ）の伝説とつながりがあります。その神話では、海の神の娘である母親が波の下にある故郷へと帰ってしまい、鸕鷀草葺不合は見捨てられます。「お乳岩」は息子への餞別で、彼は「お乳岩」から出る「乳」で育ち、その後伝説的な日本の初代天皇である神武天皇の父になったと考えられました。参拝者はこの岩に触れ、安産、子育ての無事、母親の健康を祈願します。